



SDGs

未来都市

SDGsの目標達成には国だけでなく、地方自治体との連携・協力が不可欠です。内閣府は2018年度から、SDGsの理念に沿った取り組みを推進している都市・地域の中で、経済・社会・環境の三つの視点における新しい価値の創出に積極的に取り組んでいる都市を「SDGs未来都市」として選定しています。本県ではこれまでに陸前高田市、岩手町、一関市が選ばれ、県内自治体のSDGsの取り組みをけん引しています。2020年に選定された岩手町の取り組みを紹介します。



岩手町

人が生きるとまちが生きる

岩手町は▽地域への愛着・誇りの醸成(シビックプライド)▽まちのブランド化(ブランディング)▽持続可能性の追求(SDGsの取り組み)を3本柱にまちづくりを行っています。2030年のあるべき姿として「町に関わる全ての人々が主体的に、互いに連携・協力し合って町の持続可能性を高めていくこと」を掲げています。

町の人口は2023年9月末現在の約1万2千人(2023年現在)から2040年には約7600人まで減少する見通しです。町はSDGs未来都市に選定された翌年にSDGsの理念を取り入れた町総合計画(2021-30年度)を策定。「まちづくりはひとづくり」をキーワードに、町外の企業や人の力を借りながら、町民一人一人がまちづくりに関心をもって積極的に携わり、地域内経済の循環を生み出すことで町の持続可能性を高めています。

岩手町のSDGsの詳細はHPへ



岩手町が目指す将来像

わたしたちが創る 笑顔がいっぱい いわてまち



まちの ブランド化 (ブランディング)

まち独自の魅力を生かした「岩手町ブランド」で稼ぐまちを実現するための仕掛けづくりや品質向上などに取り組み、独自のストーリー性を高めます。

地域への愛着 ・誇りの醸成 (シビックプライド)

まちに住む人やまち出身の人、まちを訪れる人など、まちに関わるすべての人が「岩手町」に誇りを持ち、みんなで主体的にまちづくりに関わります。



持続可能性 の追求 (SDGsの取り組み)

「誰一人取り残さない」を理念とするSDGsの取り組みを進め、人や産業の交流を通じて、まちの活性化とまちが長期的に発展する仕組みの構築と実践を図ります。



未来のありたい姿に近づくために岩手町では、町内外の人や企業、大学などさまざまな力を合わせて、暮らしの中で実証実験していくまちづくりの手法「リビングラボ」と、主に小中高生を対象に町の次世代を担う主体的な人材の発掘や育成を目指す「地域共創人材の育成」を進めています。



農林業テーマに「実証実験」 リビングラボ

町内外の大人から子どもまでが参加し、農業や林業などをテーマにさまざまな取り組みを行っています。農業では担い手確保プロジェクトとして「就農」や「援農」をテーマに活動しています。

家族経営や高齢化で人手が足りない町内の農家を支援する「援農」では、町の地域おこし協力隊が中心となって、町内外から支援者を募り、本年度はトモロコシやピーマンなどの植え付けから収穫、リンゴの着色管理などを手伝いました。

チームリーダーを務める町地域おこし協力隊の上村光治さん(51)＝埼玉県出身＝は「活動には町外の大学生らが参加し、町や農業の魅力を感じてくれています。今後は町内の人にも魅力を再発見してもらい、援農に参加してもらえよう取り組みをしていきたいです」と意気込んでいます。

林業では町民が山そのものを学ぶ機会を設け、森との多様な関わり方の創出を目指しているほか、地産材を活用するプロジェクトなども進められています。



援農でのリンゴの着色管理



森づくりを学ぶ山林研修

次世代が主役のまちづくり 地域共創人材の育成

高校生の視点で町の活性化を目指すプログラムや、地域と学校を結ぶ取り組みが行われています。

沼宮内高では一昨年、2年生が総合的な探究の時間で企業活動体験プログラムに取り組んでいます。町商工会や町内企業の協力を得ながら、文化祭を実践の場として活動。本年度は町の特産品のブルーベリー

ブルーベリーの染め物に挑戦する沼宮内高生



リーを使用した染め物の販売やドーナツの振る舞い、町の風景をまとめたカレンダーの販売などのプロジェクトに取り組みました。

町内の小中高では、「トークフォークダンス」を実施。授業の一環として地元企業や地域住民を招いて、子どもと大人が2重の円で着席し、1分ごとに相手が代わって対話します。互いに新しい視点を得るとともに、まちづくりに関して大人と子どもが垣根なく話せるきっかけづくりにつながっています。

地域の大人と子どもたちが対話するトークフォークダンス



地域経済の循環 人材育成に注力



岩手町長 佐々木光司

SDGs未来都市に選ばれて3年。町内外の産学官民たくさんの方々から岩手町のまちづくりに関わり、町の未来を語り合ってくれました。

次のステップは地域経済を循環させる仕掛けづくりです。空き店舗を活用して整備を進めているフューチャーセンターは来年度の開設を目指しています。起業家やサテライトオフィス向けにコワーキングスペースや貸デスク、貸オフィスなどの環境を整えていきます。

「まちづくりはひとづくり」が基本。町を離れてもふるさと岩手町を強く意識してもらえるような人材育成を進めていきます。また、国内外の都市と連携、交流を促進し、グローバルな視点で町の未来をデザインしながら持続可能なまちづくりを実践していきます。